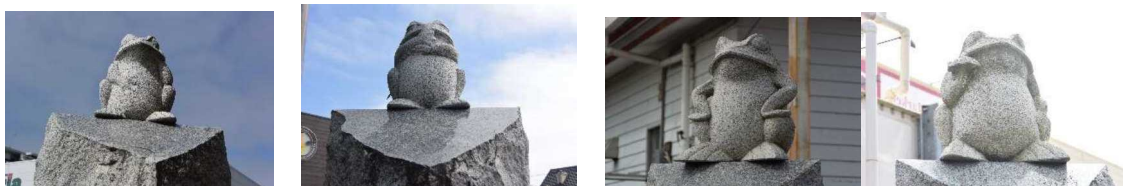




テクノパーク桜 まちづくり構想



令和2年11月5日
テクノパーク桜まちづくりを考える会



テクノパーク桜まちづくりを考える会 まちづくり構想

1. テクノパーク桜の歴史と地形・・・・・・・・・・・・・・1
2. テクノパーク桜まちづくりを考える会の歴史と理念・6
3. 住民アンケート、三本の柱の設定・・・・・・・・・・・・8
4. 交通渋滞と公共交通・・・・・・・・・・・・・・・・・10
5. 災害対策・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13
6. コミュニケーション・・・・・・・・・・・・・・・・・・15
7. まちづくり構想・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・19
8. 結び・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・24

テクノパーク桜まちづくりを考える会メンバー感想

9. 資料

「テクノパーク桜まちづくり

アンケート」(平成 26 年 3 月)



1. テクノパーク桜の地形と地質

1.1 地形

テクノパーク桜の土地区画整理事業は、つくば市柴崎に平成元年に起工され、平成9年に完了した。テクノパーク桜は桜一丁目、二丁目および三丁目から構成され、総面積は65.7haである（つくば産業ネットワークホームページ：<https://www.tsukubacity.jp/industry/sakura/>）。テクノパーク桜はつくば市の東部にあり、その中心部はつくばエクスプレスつくば駅のほぼ真北、約3.3km、つくば市役所の北東、約4.5kmに位置している（図1.1）。

テクノパーク桜は筑波台地と呼ばれる台地の東端上に位置している。テクノパーク桜付近の筑波台地は標高海拔25～26mのほぼ平坦な地形面（常総面）から構成されている（図1.2）。筑波台地の東側は桜川（テクノパーク桜付近では標高海拔5m程）、西側は小貝川に限られている。筑波台地のなかにも小河川が流下している。テクノパーク桜と東大通りとの間には、そのような小河川の一つである花室川（テクノパーク桜付近で標高海拔20m程）が南北方向に流れている。このようにテクノパーク桜は、近接している桜川よりも20m、花室川よりも5m程高い台地上にあるため、洪水被害は発生しない地形であるといえる。

1.2 地質

筑波台地は地質的には第四紀更新世の下総層群から構成されている。筑波台地における下総層群は下位から地蔵堂層（厚さ8m以上）、藪層（20～25m）、上泉層（6～26m以上）、上岩橋層（1～38m）、木下層（3～8m）および常総層（1.5～11.5m）からなっている（図1.3）。

図1.4はテクノパーク桜付近の地質断面を示したものである。図のようにテクノパーク桜付近では、常総層の上位に薄く新期関東ローム層が分布している。宇野沢ほか(1988)によると、テクノパーク桜付近の常総層は砂・礫の割合が20%～50%以下とされている。この砂・礫の割合から考えると、テクノパーク桜付近の常総層は比較的、地震時には液状化しにくい地層であると考えられる。

参考文献

宇野沢昭・磯部一洋・遠藤秀典・田口雄作・永井茂・石井武政・相原輝雄・岡重文(1988)2万5千分の1筑波研究学園都市及び周辺地域の環境地質図説明書、特殊地質図(23-2)、地質調査所、139p.

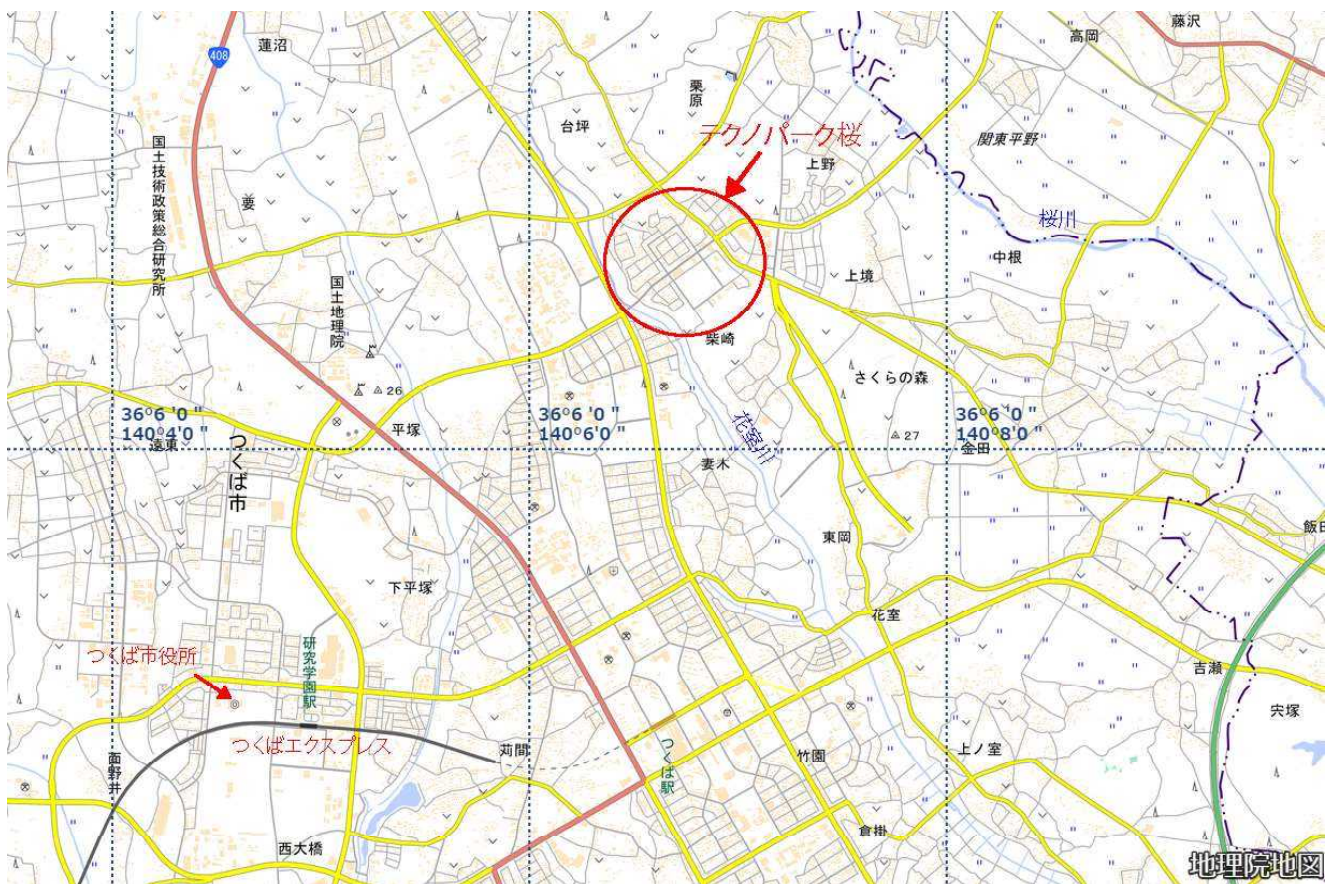
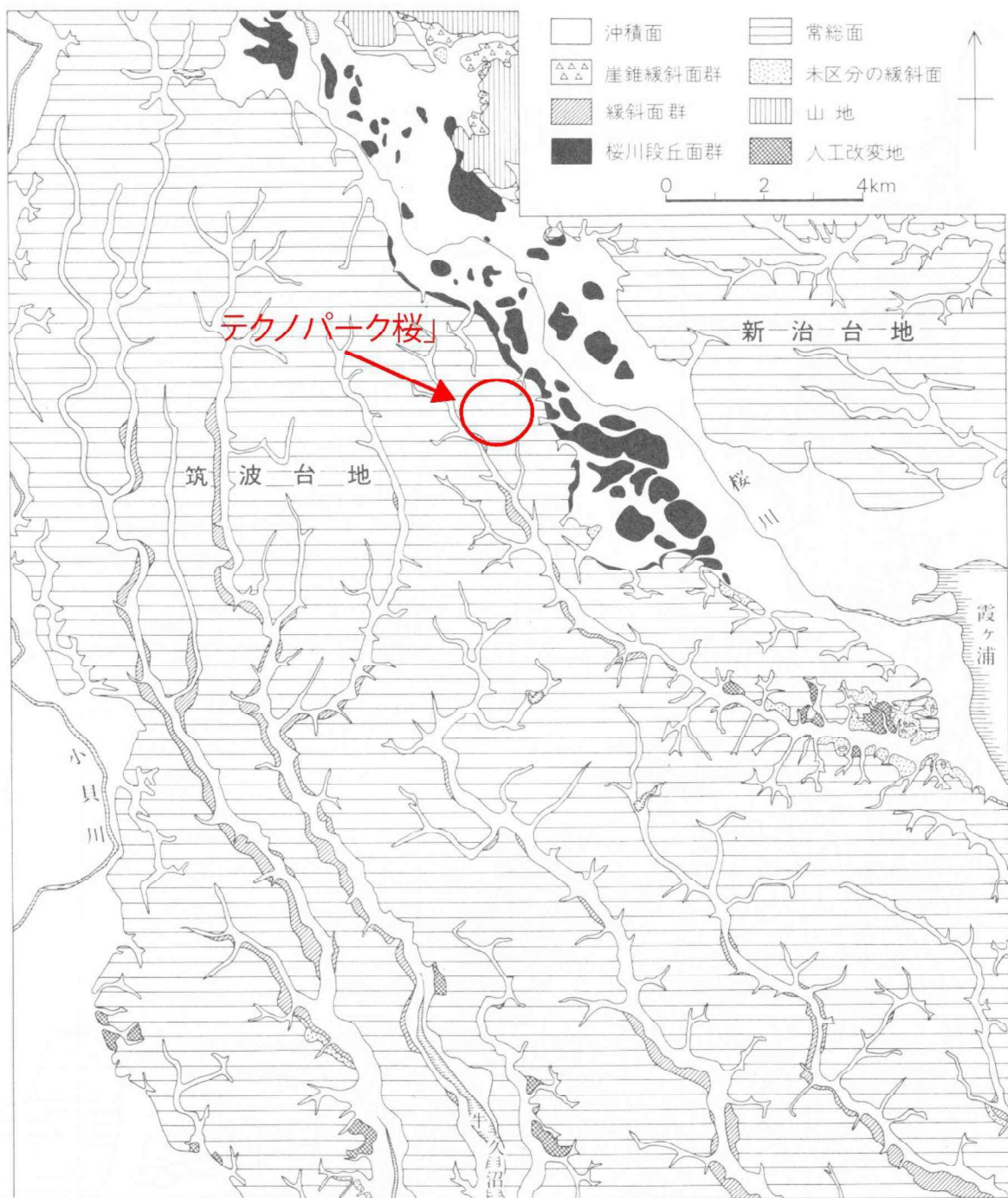


図 1.1 テクノパーク桜の位置



第4図 地形面区分図

図 1.2 筑波台地周辺の地形区分。宇野沢ほか(1988)に加筆。

時 代	層 序		堆 積 相	テフラ鍵層	地 形 面
	水 成 層	風成層			
第 四 紀 新 世	完新世	沖 積 層 (1 - 35m)	黒ボク土		沖 積 面
	後 期	桜川段丘堆積物 (2 - 14 m) 及び相当層 (0.5-4.5m以上)	段丘堆積物 崖錐堆積物 緩斜面堆積物	AT	桜川段丘面群 崖錐緩斜面群 緩斜面群
		新期関東ローム層		立川ローム層 武蔵野ローム層	
				TP	
	中 期	常 総 層 (1.5 - 11.5m)	硬砂 Jsus Jsl	Pm-1 YP-3 YP-2 YP-1	常 総 面
		木 下 層 (3 - 8 m)		HnP	(下末吉面)
		上岩橋層 (1 - 38m)		アリタマ軽石 OiP	
		上 泉 層 (6 - 26m以上)		Km2	
		藪 層 (20 - 25m以上)			
		地藏堂層 (8 m 以上)			
	先第四紀	基盤岩類	花崗岩及び変成岩		

砂礫 角礫 砂 シルト・粘土 腐植土 腐植物・木片 軽石粒 暗色帯
 白斑状化石生痕 (ヒメスナホリムシ) 砂管 貝化石 斜交葉理 ()内は層厚を示す

注：記号は本文中の各図と共通

第5図 「筑波研究学園都市及び周辺地域」の層序総括表

図 1.3 筑波台地の地質層序 (宇野沢ほか、1988)

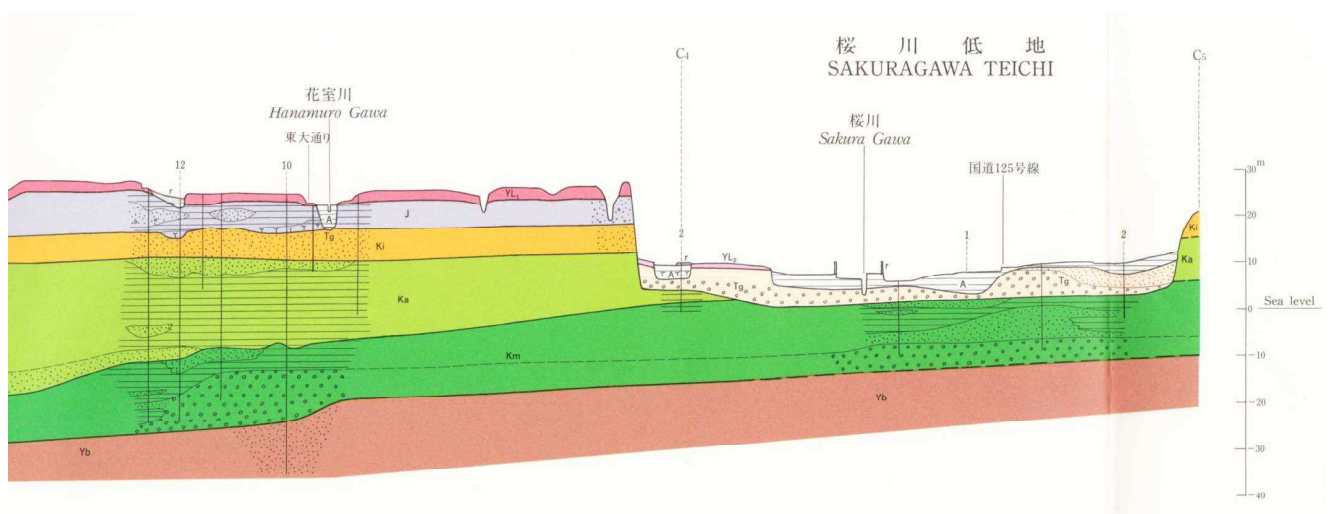


図 1.4 テクノパーク桜付近の地質断面。宇野沢ほか(1988)から一部抜粋。Yb：藪層、Km：上泉層、Ka：上岩橋層、Ki：木下層、J：常総層、YL1：

新期関東ローム層

2. テクノパーク桜まちづくりを考える会の歴史と理念

「テクノパーク桜」はつくば市東部、筑波大学に隣接する桜柴崎地区に平成9年土地区画整理事業として竣工された。真新しく区画された土地にも少しずつ家や研究所が建設され、商店も立ち並び自治会もでき少しずつまちが育ってきた。地区の南端にある反町の森公園には、街の名前でもある桜の木が中央の調整池を囲むように植えられ、それらが成長するにしたがって春には美しい桜の花が咲き誇り花見に訪れる人も多くなっていった。

平成17年、この地区内にラブホテル仕様のホテルの建設計画が起こった。このテクノパーク桜は、そのほとんどが高さ8mまでの低層の住宅しか建たない地区計画になっているが、道路沿いだけはその縛りがなかった。計画で29mという高層のそのホテルができれば、シンボルタワーのように立ち、夜はネオンを輝かせてテクノパーク桜のどこよりも目立つ存在になったであろう。



住民は当時の自治会役員を中心に「ホテル対策委員会」を立ち上げ、ホテル設計者と話し合った。普通のビジネスタイプのホテルにしてももらえないかと希望したが、なかなか受け入れてもらえない。何年もの交渉の末、私たちはついに施工主の会社へまで行った。直接のお話はできなかったが後日施工主から「そこまで住民が反対しているのなら」とホテル計画は白紙にする旨の連絡をいただいた。最後に住民の意思を受け入れてくれた施工主には今も感謝している。

つくば市にはそれまで、守谷や竜ヶ崎など周辺の地区には既に制定されていた規制条例がまったくなかった。対策委員会はその後2万人もの署名を集め、翌年つくば市全体に「つくば市ラブホテルの建築等規制条例」が制定された。この条例の特筆すべき箇所は「地区整備計画区域には建てられない」という規制が入っていることである。TX 沿線開発地区にラブホテルが一軒もないのはこの条例の功績であると言えよう。

この一件からプロの豊富な知識に対応するためには、住民も勉強する必要があると痛感し、県の講師派遣事業を受けるため、「ホテル対策委員会」を閉じる際に有志で平成21年「テクノパーク桜まちづくりを考える会」を立ち上げた。「テクノパーク桜まちづくりを考える会」は「テクノパーク桜内の良好な環境を守り、まちの活性と交流を目指す」ことを理念とした。

勉強会や、自治会との共同で地区の問題についての要望書を行政に提出するなどの活動の他、当会は店舗、学生、住民の交流を目的とする「テクノパーク桜まつり」を開催した。このまつりは大型店の駐車場を借りて行ったが、地元の小学校のソーランや中学校のキャリア事業としてのお店体験もあり、また大学生サークルによるステージやテクノパーク桜にある店舗の出店等盛り沢山の内容で、2日間でのべ約4000人を集客した。このお祭りは翌年の茨城県「商店街活性事業コンペ」で優秀賞受賞、補助金をいただき、祭りで使用するテント30基の購入に充てた。このテントは今もテクノパーク桜内の活動だけでなく、市内の住民

イベントに無料貸与し有効活用されている。

テクノパーク桜まつりは毎年1回、3年行ったところで場所の確保ができなくなり中止となった。しかし、このおまつりをきっかけに商店会もでき、商店の店主さんとも仲良くなりその後も連携することが多くなった。また筑波大生たちとも交流が途絶えず、学生主体のゴミ拾い活動や、無料の学習塾さくら塾などに関わっている。

また、防災や音楽などの小さなイベントを行いながら、地区の自治会で構成する連絡会とも情報共有をし、設立当初の理念を守りながら活動を行っている。

3. 住民アンケート、三本の柱の設定

私たちテクノパーク桜まちづくりを考える会は、「まちづくり構想」作成にあたって、住民の意見を聞くことから始めることにした。そこで区会連絡会の協力も得て、平成 26 年 3 月にテクノパーク桜 1 丁目～3 丁目の自治会住民対象に「まちづくり構想」の説明を行うと共に「テクノパーク桜がどんな街になってほしいか」についてのアンケート調査を行った。

区会会員数 150

配布数 150

回収数 75

回収率 50% (巻末に資料添付)

アンケート設問

テクノパーク桜にお住まいの皆様に、今後のまちづくりについてお聞きします。

1. テクノパーク桜に住んで何年になりますか？ _____ 年

2. テクノパーク桜に住んでいて良いところと不満なところを挙げてください。

良いところ _____

不満なところ _____

3. これからの少子高齢化社会において、私たちが老後もずっと安心してこのテクノパーク桜に住み続けていくためにはどのようにしていくといいと思いますか。

4. テクノパーク桜のまちづくりにご関心がありますか？

ある 少しある ない 全くない

その他の意見

このアンケートの結果は回収後まとめられ、5月に各区会に回覧された。

回答者の在住期間は4か月から20年にわたっており、特に10～19年が多かった。平成7年頃土地区画整理事業が落ち着き土地の分譲が始まったことを考えると、区会の住民のほとんどがこの区画整理事業後から居住を開始したと考えられる。

回答は選択式ではなく記述式のため、数字の集計はできなかったが、個人の意見を一つ一つ丁寧に読むことができてよかったと思う。

アンケートの回答をまとめていくと、

この地区の良いところは

- ・歩いていけるとところに生活に必要な店がそろっている。
- ・静かで暮らしやすい

逆に不満なところは

- ・しらかし通りの渋滞
- ・バス便がなくなって駅まで行けなくなった。

が圧倒的に多く、そのほかに

- ・学校が遠い
- ・街灯が少ない
- ・学生の自転車がなくて、無灯火などマナーが悪いために危険である。
- ・郵便局や銀行がない。
- ・身の回りの犯罪が増えた などの意見も見られた。

今後もテクノパーク桜に住み続けていくにはどのような改善が必要か

- ・交流の場がほしい
- ・老後も安心して住めるような施策。バリアフリーの歩道など
- ・路線バスの整備
- ・防災防犯対策 安全なまちづくり

がほとんどであった。

テクノパーク桜まちづくりを考える会は、これらの結果から

- ① 朝夕のしらかし通りの渋滞 公共交通機関の拡充
- ② 防災、安心安全な環境
- ③ 地域住民や商店、学生たちとのコミュニケーション

の3本の柱を設け同会の今後の活動の柱にした。

4. 交通渋滞と公共交通

つくば市の幹線道路である東大通りにつながる市道 1014 号線（通称 しらかし通り）はテクノパーク桜の中心を通り、沿道は多くの商店が立ち並び、街のメインストリートとなっている。しかし、この通りは上下1車線であり、東大通りを交差して後平塚通りへとつながるが、この平塚通りは上下2車線なので、必然的にしらかし通りは常に渋滞している。

下記地図の赤線が渋滞部分



テクノパーク桜整備が竣工された当時から、このしらかし通りは渋滞していたが、上野新治線の桜大橋ができてから常磐高速道路の土浦北インターから、つくば市センター地区へ行く最も速いルートとしての利便性が増えたこと、（下マップの緑線）、さらに上野花室線の開通（下マップのオレンジ線）によって、土浦市からつくば市北部へ行く最短ルートであり、新しくつくばエクスプレス沿線開発された春風台やさくらの森地区からの往来も多いことから、この上下1車線の道路に多くの幹線道路の車両が流れ込むことになってしまった。

また、東大通りとの交差点で大学生の歩行者、自転車が多く、左折で東大通りに入ることがなかなかできないなどの理由から距離的には数百メートルだが 15 分以上かかるようである。日常的な交通渋滞はむりやり通行したり、子どもが通学に使うような細い住宅地内の抜け道を通るなど事故をも誘発する。このような理由からアンケートでも道路の渋滞や安全対策に対する意見が非常に多く見受けられた。

だけだ。その甲斐あって平成31年4月1日よりつくバス北部シャトルはテクノパーク桜入口で停車することになった。したがって、現在テクノパーク桜内には2路線のバス停留所があり住民が利用できるようになったのである。

テクノパーク桜まちづくりを考える会は、今年1月18日に実際につくバスに乗って健康増進施設「つくばウェルネスパーク」へ行き、筋力トレーニングを楽しむという事業「つくバスツアー」を行った。バスで行くことにより、交流もはかれ楽しい一日となった。

今後もつくバスを使ったツアーを行い、住民のコミュニケーションを図りつつ、高齢化になり運転免許を返納しても公共交通を利用して積極的に外出できる機会をつくっていききたいと思う。

新春
つくバスツアー

集合場所
バス
パーク
桜店前

2019年4月から新しく東大通り沿いにバス停「テクノパーク桜入口」ができました。今回、このバス乗車体験を行います。まだつくバスを利用したことのない人、つくばウェルネスパークに行ったことがない人、ぜひこの機会に御参加ください。

つくバスに乗って健康施設「つくばウェルネスパーク」に行きます
当日、2階研修室にて「毎日の筋トレ講座」も開催します！

温水プール

トレーニングルーム

大浴場や露天風呂サウナもあるよ！

開催日 2020年1月18日(土)
時間 10時集合 帰り12時または14時頃の2便
集合場所 ガストテクノパーク桜店前 荒天中止

定員 先着20名
下記のQRコードがメールにてお申込みください。(1月10日期限)

持ち物 運動ができる服装 室内シューズ、飲み物 健康保険証 タオル
プールに入る方は水着、水泳帽、ゴーグル等お持ちください。
昼食をとられる方は食堂がありますので各自お取りください。

※バス代は当会にて負担いたします。ウェルネスパークつくばの入館料は自己負担をお願いします。
(中学生以上730円 3歳以上410円 65歳以上410円) ※お子様だけの参加はご遠慮ください。

主催：テクノパーク桜まちづくりを考える会

5. 災害対策

平成 23 年（2011 年）3 月 11 日に発生した東日本大震災はこのつくば市においても震度 6 弱の揺れがあり、停電、ガスの供給ストップ、断水が続いた。

テクノパーク桜まちづくりを考える会でも、このような災害に対し日頃からの住民への防災啓発が重要と考え、防災対策関連の活動を行ってきた。

2011 年から 2013 年まで毎年主催したテクノパーク桜まつりでも、消防署の協力を仰ぎ

平成 23 年（2011 年）11 月 12. 13 日 第一回テクノパーク桜まつり AED 講習会

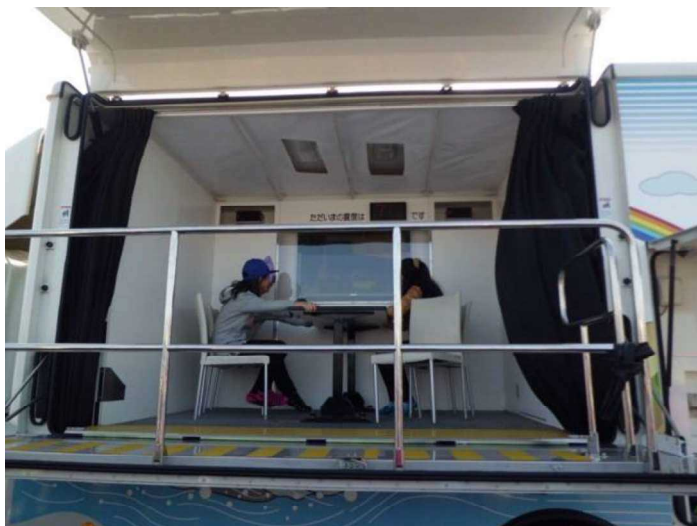
平成 24 年（2012 年）11 月 10. 11 日 第二回テクノパーク桜まつり 応急処置講習会

平成 25 年（2013 年）11 月 第三回テクノパーク桜まつり 起震車による地震体験と防災講話についての講習会を行った。



AED講習会

起震車の様子



平成 26 年（2014 年）11 月 9 日には、テクノパーク桜地区内にあるミナバオートサロンの店舗を借り、まちづくりフェスタを行ったが、ここでも、防災研究所の研究者であり、まちづくりの会のメンバーでもある脇坂氏を講師に迎え「テクノパーク桜における地質と防災」に関する講演を開催した。専門的な見地からテクノパーク桜を学ぶことができ、より一層防災の大切さを知った。

最近では、平成 30 年（2018 年）7 月 29 日に「ウェルネスつくば桜夏の健康まつり」では、社会福祉協議会との協力の元、「ジャッキを使った救援活動体験」「ビニール袋を使った災害時の避難所で役立つ調理法」「ローリングストック展示説明」などを行った。

テクノパーク桜をづくりを考える会主催
防災教室
in ウェルネスシティつくば桜健康夏まつり

7月29日(日)10:30~14:30
◎ウェルネスシティつくば桜分譲地中央広場

避難食実践講座
「水が出ない」「電気が出ない」そんな状況でも温かい食事がつくれるように、カセットコンロとビニール袋を使って湯煎で炊飯、おかずをつくりまします。ビニール袋に米と水を入れて湯煎で炊いたチキンライス、サバ缶とキャベツのカレー煮、ポトフなどの試食もできます。

ジャッキで救出！体験コーナー
タイヤのパンクなどに使うジャッキは2トンまでの物を持ち上げることができます。机に挟まれた人形を実際に救出してみましょう。覚えておくといざというときに役立ちます！

ローリングストックってなに？
30年以内に70%の確率で発生すると予測されている首都直下地震！日頃の備えはできていますか？ローリングストックは特別な防災保存食を使うことなく、日頃の備蓄食品を少しずつ食べながら新しく買い足していく、誰にでも簡単にできる防災食品備蓄方法です。

01 当日スケジュール
ウェルネスシティつくば桜 健康夏祭り
9:30 ~ 10:30
クラブハウスにて市長親睦会の予定
10:30 ~
まつりスタート！
焼き鳥や焼きそばなど出店多数！
餅的やスーパーボールすくいなどお子様も楽しめる企画もたくさん！
ビッグバンド、フォークローレなどのライブも！
※駐車場がありませんので、徒歩でご来場くださいますようお願いいたします。

02 水風船のプレゼントも！
防災について考え、学び、体験する講座です。皆様ぜひお立ち寄りください。ご参加いただいた方には水風船をプレゼントいたします！

「ジャッキを使った救援活動」は、車のタイヤがパンクした際に使用するジャッキを使って柱にはさまれた人を助ける方法であり、誰でも安全に救援するための実習を行った。

「ビニール袋を使った災害時の避難所で役立つ調理法」は、湯煎調理で炊飯や煮物など温かい料理を作る方法だが、一つの鍋で複数の調理ができ、鍋も汚れないことから災害時に水が足りない時に非常に役立つ料理方法である。実際に試食してもらったがとても美味しいと好評だった。

「ローリングストック展示説明」は特別な保存食を購入するのではなく、普段からレトルト食品や缶詰などの食品を少しずつ食べては新たに買い足すことにより賞味期限切れを防ぎ常に安定した防災食品の維持保管ができる方法であり、近年テレビなどでも紹介されているが、長年実践しているメンバーがおり、実際に保管している様子を展示した。

昨年は全国規模で行われている防災イベント「ミズベリング」がつくばで初めて上郷の川口公園で行われることを知り、有志で参加した。テクノパーク桜にも「反町の森公園」があり、雨天時の調整池の役割を持っていることからこの「ミズベリング」を今年開催する企画を考えていたが、新型コロナウイルスの蔓延防止のため開催を断念した。しかし、災害対策は非常に重要な課題である。今後もこのような防災イベントや勉強会などを行っていきたいと思う。

6. コミュニケーション

3本の柱の中で、私たちが最も大切にしていきたいのがこの「コミュニケーション」である。テクノパーク桜は、筑波大学に隣接しており、学生のアパートが非常に多い。また、沿道沿いにはテナント型の商店が立ち並び、地区内には研究所も多い。多世代多様な人々がこのテクノパーク桜に住み、また関わっている。しかし、これらの人々が十分なコミュニケーションをとっているかという点、甚だ疑問である。特にこれからの高齢化で戸建ての住民にとってコミュニケーションは生きがいでありいざと言う時の命綱ともなる。先に記述したアンケートでも最も多かったのもこのコミュニケーション形成の重要性についての意見だった。

私たちテクノパーク桜まちづくりを考える会は、このコミュニケーションを微力ながらもはかれるようなイベントを多く行ってきた。

平成23年から25年まで同会が主催した「テクノパーク桜まつり」はまさにそのコミュニケーションの場だった。地域住民だけでなく、商店や企業、小学校、中学校、高校生、大学サークルなど様々な団体が参加し、大いにまつりを盛り上げた。延べ数千人の来場があった大盛況のまつりであったが、会場の都合から3年続いて中止となった。しかし祭りの成果として「場を共有することによりコミュニケーションが形成される」ことができたのはその後のまちづくりを行う上で重要な指針となった。

私たちまちづくりを考える会は、その後も現在まで多くのコミュニケーションを図る活動を行ってきた。

平成26年（2014年）まちづくりフェスタ 住民アンケート

平成29年（2017年）「ウェルネスつくば桜夏の健康まつり」参加（紙芝居など）

平成30年（2018年）「ウェルネスつくば桜夏の健康まつり」参加（防災教室）

「テクノパーク桜商店会健康まつり」参加（街角音楽会）



令和元年（2019 年）

「テクノパーク桜商店会健康まつり」参加（バンド）

街角音楽会

カエルウォーク

つくバスツアー

この中で特筆したいのは「街角音楽会」と「カエルマップ」である。

(1) 「街角音楽会」

街角音楽会は、まちづくりの会メンバーの一人が「テクノパーク桜まつりの時に筑波大学のジャズサークルにステージ出演してもらったが、それを見ていた住民の一人が「街でこんなに本格的な音楽が聴けるなんて素晴らしい」と言っていたことから、音楽が流れている街は素晴らしいと提案して実現した。テクノパーク桜が筑波大学に隣接しているため、学生サークルにお願いしやすいという地の利がある。また、住民の中にも音楽愛好家が多くいて「音楽が流れているまち」を実現できるかもしれない。その試みとして行ったのが「街角音楽会」である。



(2) 「カエルマップ」

テクノパーク桜の特徴の一つとして、街のあちこちにあるカエルモニュメントがある。この数を数えたら 36 匹もいることがわかった。しかもそれぞれが別のポーズをとっている。これほどカエルのモニュメントが多いまちは日本を探してもそれほ



どないのではないかな。この地域の宝を皆に知ってもらい、地域への愛着を深めてもらいたいという目的からマップをつくることにした。地区内はメンバーで回り写真を撮った。イラストは大学生にお願いした。おかげで若い感性の光る可愛らしいマップに仕上がった。さらに地区内にあった地図会社「中央地学」が趣旨に賛同してくれ、無償でWEB上でも見られるカエルマップを作ってくれた。

このマップは5000部印刷し、地域内区会全戸、小学校、中学校、保育園、商店などに配布した。かなり話題になったようで地域紙にも載せてもらえた。



このマップの活用として、テクノパーク桜まちづくりを考える会はこのマップを見てカエルを見つけながらウォーキングをするイベントを2回、商店会のイベント参加で1回行った。カエルをマップで探しながら見つけるのは楽しくとても好評だ

った。メンバーに整骨院の先生がいるので正しい歩き方のレクチャーもしてもらえたのも良かった。地域を知りコミュニケーションも図れ、健康にも役立つこのカエルマップをこれからも活用していきたい。



7.まちづくり構想

私たちテクノパーク桜まちづくりを考える会は、テクノパーク桜のまちづくりについて、「渋滞・公共交通」「防犯・防災」「コミュニケーション」という3本の柱を活動の方針に据えながら以下のようなまちづくり構想を考えていきたい。

①交通渋滞の少ない、人にやさしい道路のあるまち

街の中心を通るしらかし通りの慢性的な渋滞が緩和され、歩行者に対し横断歩道で車両が停まってくれるまち。

【具体的なプラン】

- (1) 区会等と連絡を取り、行政や警察に陳情書を提出する。
- (2) 手を高く挙げて渡ることをアピールするなど、安全な横断歩道の渡り方実践講座をおこなう。
- (3) 他自治体の好事例を調査し実行する。
- (4) 看板や横断旗の設置の検討や要望を行う。
- (5) 大学生にも呼びかけ、自転車の無灯火をしない等安全対策を講じる。



②公共交通を利活用するアクティブなまち

高齢になり、自動車免許返納をすることにより閉じこもり気味な毎日にならないよう、公共交通であるつくバスに積極的に乗って様々な場所へ行

き、毎日を楽しむことのできるまち。

【具体的なプラン】

- (1) 地域内に2路線あるつくバスを有効に使い、宝篋山や筑波山巡りや、つくばウェルネスパークでエクササイズを楽しむツアーを企画する。
- (2) つくばセンターのイベントや都内へ出かける時、つくバスやつくタクを気軽に使えるようなプランを紹介し、実践していく。



③防災や防犯をすすめるまち

避難訓練や防災イベントなどの活動を行い、突然の災害にも慌てずに対処できるような知識や防災意識をもつと同時に、犯罪に対しても個人だけでなく地域全体の防犯力を高めていく安心安全なまち。

【具体的なプラン】

- (1) 識者や防災士も交えて防災イベントを行う。
- (2) 地域内の企業を講師に招き、防災についての勉強会を行う。
- (3) 防災イベント「ミズベリング」を反町の森公園で行う。
- (4) 地域管轄の交番の警察官から地区内の犯罪状況や防犯について学ぶ。
- (5) 警察署協議会などで地域の危険箇所等について意見を述べる。

④音楽がきこえるまち

店舗前や反町公園などで街角音楽会を定期的に行うことにより地域内の

音楽愛好家の掘り起こしや交流を生み出し、通りを歩くとどこからか音楽が聞こえてくるようなまち。

【具体的なプラン】

- (1) 春秋の2回、定期的に「街角音楽会」を開催する。出演者は地区内の音楽愛好家をお願いし、交流の場とする。
- (2) 他団体が主催するイベントや保育園などに出向き、歌を歌いながらの絵本の読み聞かせやお話会を行う。



⑤集まる場所は一か所じゃない。コミュニケーションを楽しむまち

地域の集会所がなくても、公園の利用、店舗やウェルネスシティつくば桜のクラブハウスなどの協力、カエルモニュメントの街歩きなどさまざまな場所で交流をはかる活動を行い、多世代のコミュニケーションを楽しむまち。

【具体的なプラン】

- (1) 筑波大学の隣接である地の利を生かし、大学生と住民が交流できる場をつくる。
- (2) カエルモニュメントのマップを使いウォーキングで歩いた距離のインジケータを計るなどの工夫をして健康にも役立つ企画を行うと共に地域への愛着をもつ。



- (3) ウェルネスシティつくば桜の夏祭りと連携する。
- (4) 地元の商店に協力を仰ぎ、気軽に交流できる場を設置する。

⑥にぎやかな街並みのある、歩いて生活できるまち

生活に必要なものを歩いて買いに行ける商店の街並みが、これからも活気のある賑わいを続けていけるよう、住民と地域内の商店や商店会とが連携をもち協力しあうまち

【具体的なプラン】

- (1) 地区内に36匹設置されているカエルモニュメントを大切にし、定期的に清掃を行うと共に地域の特色として他の地区にも情報発信する。
- (2) 商店会のイベントを区会内でも回覧するなど地域を盛り上げていく。



- (3) 商店会と連携してさまざまな活動を行う。
- (4) 地域紙や地域ニュースなどを作成し回覧する。
- (5) しらかし通り沿い歩道にある老朽化したベンチのメンテナンスを提言する。

⑦学校や保育園、企業とも連携のとれるまち

普段から地域にある学校や保育園、企業との交流を行い、連携のとれるまち

【具体的なプラン】

- (1) イベントの広報を利用して企業や学校、保育園への訪問を行う。
- (2) デイケアや学童保育施設にも紙芝居やギターの弾き語りなどのボランティアへ行く。
- (3) 防災関連の勉強会などに企業を講師として招き専門的な知識を学ぶ。



(反町の森公園)

8. 結び

テクノパーク桜は事業完了が平成9年なので、もう23年がたつ。私事ではあるが、当初しらかし通りには信号もなくスピードを上げて走り抜ける車に脅えながら小学校へ通学する子どもと横断する毎日だった。その横断歩道にたった1基の信号をつけてもらうためには、非常に多くの時間と学校やPTAの協力、嘆願書等が必要であった。約1年後に信号は設置された。思えばテクノパーク桜でこの信号設置が私にとっての最初のまちづくりだったかもしれない。

今回のまちづくり構想では、私たちテクノパーク桜まちづくりを考える会の活動の方針と目指すところを記述した。私たちは決してこれが「テクノパーク桜の総意」とは思っていない。アンケートなど住民の意見を聞きながらではあっても一人一人考えも違うし、まちに対しての思いも違うだろう。だからこそまちは刻一刻と変わり成長していくのだろうと思う。

今もつくば市内にはあちこちで開発がされ、まちができています。しかし、たとえ行政や企業が地区を整備し、道を作ったとしても、その街を生きたまちとして育てていくのはそこで暮らしそこで働く人たちであると私は思っている。

テクノパーク桜まちづくりを考える会は設立より10年以上たつが、ふりかえってみると実にたくさんの活動をしてきた。どの活動一つ取っても考える会だけの力ではできなかった。自治会をはじめ住民の皆さん、さまざまな団体、商店や事業所、学生さん、行政の職員の方々、本当に多くの方々の力を頂いてなんとか続けてこられたと思っている。この構想を書くにあたっても、当時ご協力をくださった方々のことを何度も思い出していた。改めて感謝を申し上げたい。

これからも微力ながら、テクノパーク桜が楽しいまちになるように活動していきたいと思う。

どうぞ、これからもよろしくお願いいたします。

令和2年11月5日

テクノパーク桜まちづくりを考える会 代表
水谷

テクノパーク桜まちづくりを考える会メンバー（抜粋）よりコメント

・私はテクノパーク桜まちづくりを考える会発足当初から会計として参加させて頂き、街角音楽会などの企画に携わって参りました。これからも音楽のある楽しい街づくりを目指して微力ながらこの活動のお手伝いをしていきたいと思います。（青木）

・テクノパーク桜で整骨院事業を始めて四年が経過し、まちづくりや商店会の活動に本当に微力ながら参加させて頂いて感じる事は、「子供達が走り回る姿や高齢者が歩き回る姿があまり見られない」事です。

健康の一旦を預かっている者としては、“ロコモティブシンドロームという絶対的な運動不足が生む人の弱体化（子供達・高齢者ともに）”に対してどう対策すべきか考えなければなりません、これは一つの事業として何かを行うレベルでは到底解決せず、根本的な構造から見直さなければなりません。

今回のまちづくり構想の先にあるのは、まさに『子供達が走り回り、高齢者が安心して歩き回れる街』だと考えます。

生活の中で自然と生まれる運動量が及ぼす体への影響は計り知れず、このまちづくり構想が街の人たちにとって福音となる事を願い、今後も活動協力していきます。（細谷）

・テクノパーク桜街づくりを考える会に夫婦で参加している 古場 でございます。桜に住むようになって4年程度と、まだわずかな期間しか過ぎていませんが、良い環境で住み易い街だと感じています。

桜は街中であることから生活面で非常に便利であるにもかかわらず、自然が豊かで、さらにはご近所づきあいも多く、住んで良かったと思いますし、これからも長く住んでいたいと思っています。

まちづくりの会は、桜に住んでいる皆さんが「桜は良い街だ・・・」「住んでて良かった・・・」と実感できる街であり続けるために貢献しており、そのメンバーに加われたことをうれしく思います。

これからも、まちづくり構想に沿って発展できるよう協力していきたいと思います。（古場）

・カエルのモニュメント、子どもたちもお散歩の最中に見つけるととても喜びます。テクノパーク桜はカエルさんのいる楽しいまちだと思います。まちづくり活動から保育園での読み聞かせボランティアが広がって、とても良かったと思っています。まちづくり構想も素晴らしいと思います。今後ともよろしくお願いいたします。（鈴木）

・つくば市には高齢化が進んでいる地域が数多くあります。テクノパーク桜も例外ではありません。私は自助・共助・公助の中の共助の大切さを、少しでも多くの人にこのまちづ

くり活動を通して伝えていきたいと思います。

これから住民参加型まちづくりはますます重要になります。テクノパーク桜を含め、つくば市民が少しずつ力を寄せ合い、まちづくりを進めれば必ず「誰もが生き生きと毎日を元気に暮らせるまちつくば」になると確信しています。このまちづくり構想が実現されるよう祈念いたします。（飯岡）

・私が「テクノパーク桜まちづくりを考える会」に入会することになったきっかけは、私がテクノパーク桜内のある自治会の会長をしていたことにあります。私が自治会長をしていたときにテクノパーク桜内の集会所用地とカワチ薬品裏の工業用地の住宅用地への転用の問題がありました。この件に関してテクノパーク桜内の複数の自治会の連絡会でも協議をすることとなり、その場に水谷さんも同席して下さったのです。

工業用地を低層住宅用地に転用することをテクノパーク桜の住民として認める条件として都市再生機構が保有している集会所用地がつくば市へ譲渡されることが、各自治会で決議され、これらの問題は解決しました。この間、つくば市と都市再生機構との協議の場にも水谷さんは同席して下さいました。

私がテクノパーク桜に居住するようになって14年ほど経過しました。居住する前からテクノパーク桜はいろいろな商店、飲食店、スーパーマーケットがあり、筑波大学の学生がたくさん歩いている明るく、開放的でよい街だなと思っていました。実際に住んでみると本当によいところでした。歩いて行ける範囲で日常生活に必要なものはほとんど手に入れることができます。今後、このような住みよい街の住環境が悪化せず、さらに良くなればよいなと思っていました。ただ、個人で良くなればよいなと思っているだけでは、実際の街を良くすることはできないでしょう。このような思いから、水谷さんが代表をされている「テクノパーク桜まちづくりを考える会」に入会することにしました。あまり会の活動には参加できていませんが、これらからも細く長く会の活動が継続されることを願っています。（脇坂）